

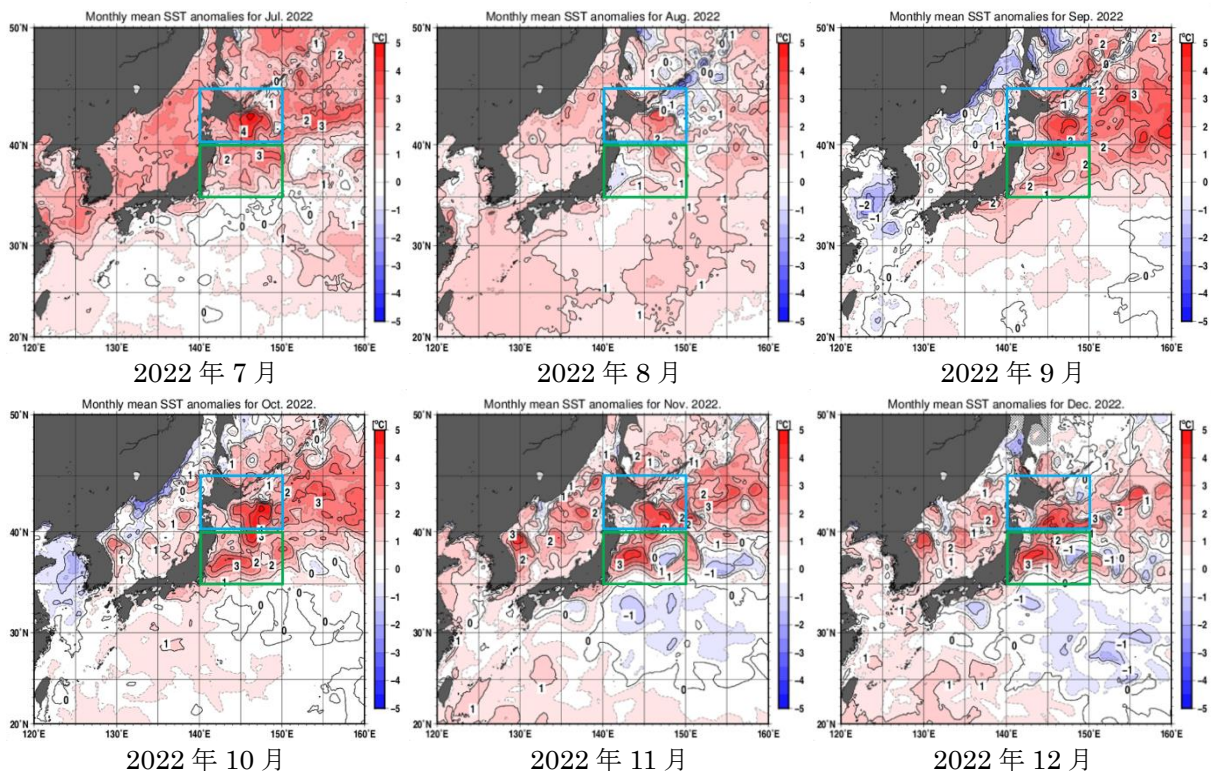
II 2022年7月以降の北海道南東方、本州東方の記録的な高海面水温について

○ 北海道南東方、本州東方の海面水温は、2022年7月以降平年より高く経過し、北海道南東方では7、10、11月、本州東方では10、11月に各月の海面水温として1982年以降で過去最高となった。

気象庁では、人工衛星、船舶、ブイ等による観測データを用いて、日本近海から全球にわたる海面水温を解析し、その変動を監視している。2022年の日本近海の海面水温は、7月から12月にかけて日本の東を中心とした海域で平年より高い状態が続いた(図II.1)。北海道南東方の海面水温は、6月下旬に平年より高くなり、7月上旬には一時的に平年より約3°C高くなった(図II.2)。7月の月平均海面水温は平年差+2.3°Cで、解析値のある1982年以降の第1位となった。月平均海面水温は8月に入ると平年差+0.9°Cで平年との差は小さくなったが、9月から12月にかけて平年差+1.5~+2.1°Cと平年より高い状態が続き、10月と11月の月平均海面水温は第1位、9月と12月は第2位だった。本州東方の海面水温は、北海道南東方のそれとほぼ同様に経過し(図II.2)、月平均海面水温は10月と11月に第1位、7月と9月に第2位、12月に第3位だった。

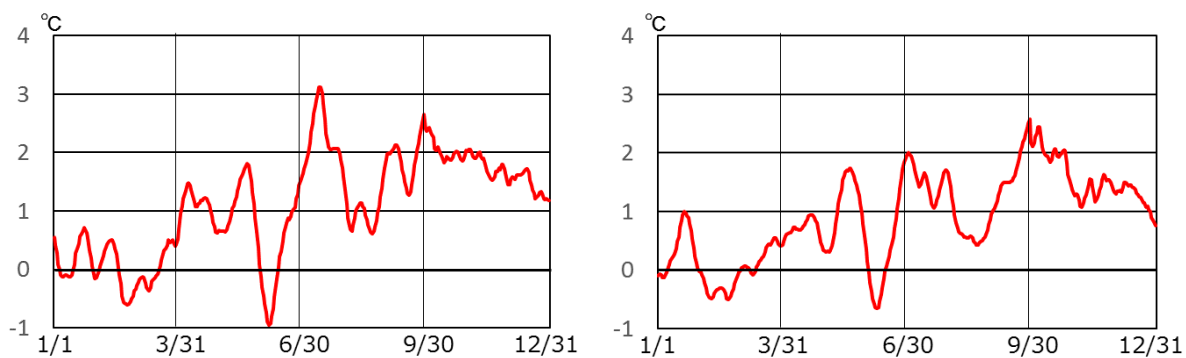
北海道南東方と本州東方の海面水温が2022年7月以降記録的に高く経過した要因として、以下の点があげられる。

- ・暖水渦や黒潮系暖水の影響を受け、100m深の水温でも平年より高い状態が続いた(図II.3)。
- ・6月後半から7月上旬にかけて平年より日射量が多かったことと暖かく湿った空気の影響があった。
- ・9月上旬と中旬に本州東方では平年より日射量が多かったことの影響があった。

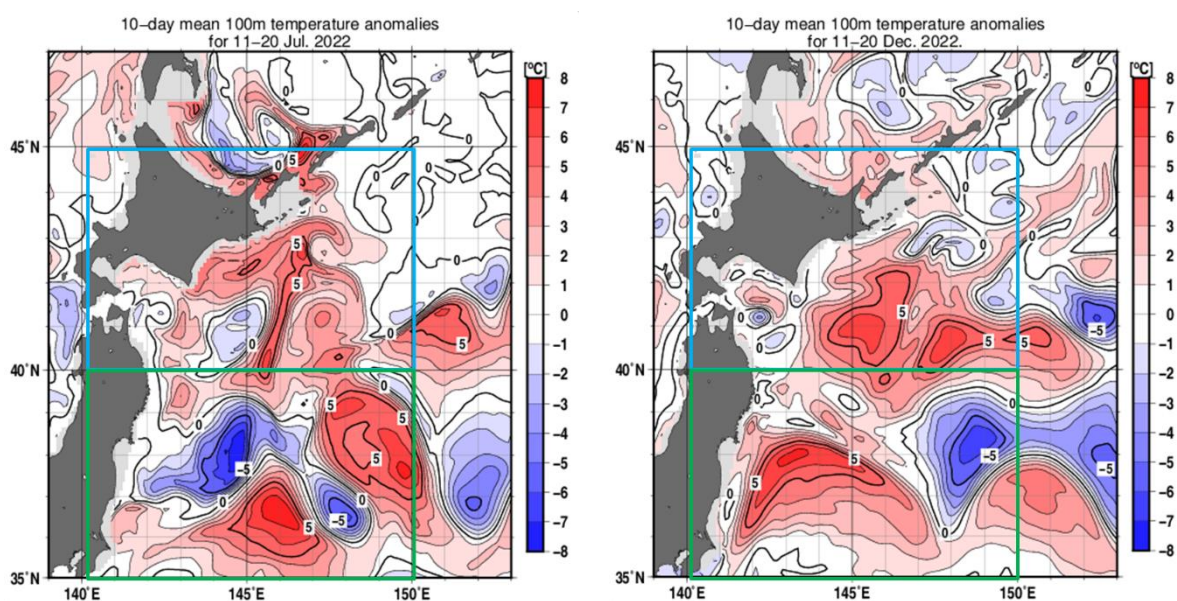


図II.1 2022年7月～12月の月平均海面水温の平年差分布図

青枠は北海道南東方、緑枠は本州東方の領域を示す。7～9月は確定値、10～12月は速報値を用いている。平年値は1991～2020年の平均値。



図Ⅱ.2 北海道南東方（左図）、本州東方（右図）の2022年1～12月の海面水温の年差の日ごとの推移
平年値は1991～2020年の平均値。



図Ⅱ.3 2022年7月中旬（左図）、12月中旬（右図）の100m深水温の年差分布図
青枠は北海道南東方、緑枠は本州東方の領域を示す。平年値は1993～2017年の平均値。